

# 第6期 事業報告書

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

株式会社トランスジェニック

(証券コード 2342)

## 経営理念

**生**物個体からゲノムにいたる

生命資源の開発を通じて、

**基**盤研究および医学・医療の場に

遺伝情報を提供し、

その未来に資するとともに、

**世**界の人々の健康と豊かな

暮らしの実現に貢献する。

### CONTENTS

株主の皆様へ …………… P2

事業の概況 …………… P3

セグメント情報 …………… P4

今後の取組み …… P5・P6

財務諸表 …………… P7・P8

株式の状況 …………… P9

会社の概況 …………… P10

株主メモ …………… 裏表紙

## 株主の皆様へ



代表取締役社長

是石 匡宏

株主の皆様には、日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第6期（平成15年4月1日～平成16年3月31日）の事業の概況をご報告申し上げます。

当社は、山村研一教授（現・熊本大学発生医学研究センター教授、当社非常勤取締役）を中心とした熊本大学からの技術移転を礎として、「遺伝子破壊マウス事業」及び「抗体事業」を行っております。主力事業である遺伝子破壊マウス事業におきましては、遺伝子破壊マウスを迅速・網羅的に作製し、これを用いて新薬を開発することに意欲的な製薬会社や基盤研究を行っている大学など、医学や医療の場に遺伝情報を提供することにより、世界の人々の健康と豊かな暮らしに貢献したいという思いで事業を推し進めております。

当期は、遺伝子破壊マウスから得られる情報を優先的に提供する第一市場におきまして、継続的使用権の許諾に進展する系統が初めて現れ、配列情報の開示数や表現型解析の開示数も順調に増加させることができました。また、遺伝子破壊マウスから得られる情報を非独占的に提供する第二市場につきましては、製薬会社5社と契約することができ、個別売却市場につきましてもテストマーケティングを実施いたしました。一方、生産体制につきましては、目標としておりました年間1,000系統の作製規模を確保することができました。これらの結果、当期の業績は、売上高が前期比209%の574百万円となりました。損益につきましては、先行投資的な研究開発費を計上したこともあり、経常損失が1,469百万円（前期は944百万円）、当期純損失は1,475百万円（同948百万円）となりました。

今後の取り組みとしましては、稼働率を高めることで、遺伝子破壊マウスの生産数を増加させるとともに、今期より開始した第二市場や個別売却市場を立ち上げ、収益の拡大につなげてまいります。また、生産コストの低減や全社にわたるコスト削減を実施し、早期の黒字化に向けて取り組んでまいります。

さらには、第一市場におきまして、表現型解析の開示や継続的使用権の許諾に進んだ系統のなかから、共同特許出願へ移行するものが現れることを期待しております。共同特許に進むことにより、創薬ターゲットの候補となる遺伝情報を提供する会社から創薬ターゲットそのものを提供する会社へと企業ステージが進み、当社ビジネスの大きな転換点になるものと考えております。

株主の皆様におかれましては、こうした当社の姿勢に何卒ご理解を賜り、一層のご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

平成16年6月

# 事業の概況

当期の業績につきましては、売上高が574百万円（前期比209%）と倍増しました。事業部門別の内訳としましては、遺伝子破壊マウス事業が476百万円（前期比293%）と大幅に増加したのに対し、抗体事業は98百万円（同87%）にとどまりました。

損益につきましては、遺伝子破壊マウス事業におきまして、三層構造から成るビジネスのうち、第二市場と個別売却市場が立ち上がる前段階のなか、遺伝子破壊マウスの大規模作製に伴う先行的な支出を含めた研究開発費を1,194百万円（前期は561百万円）計上したこと等により、営業損失は1,467百万円（同898百万円）となりました。

また、経常損失は1,469百万円（前期は944百万円）、当期純損失は1,475百万円（前期は948百万円）となりました。

## Topics

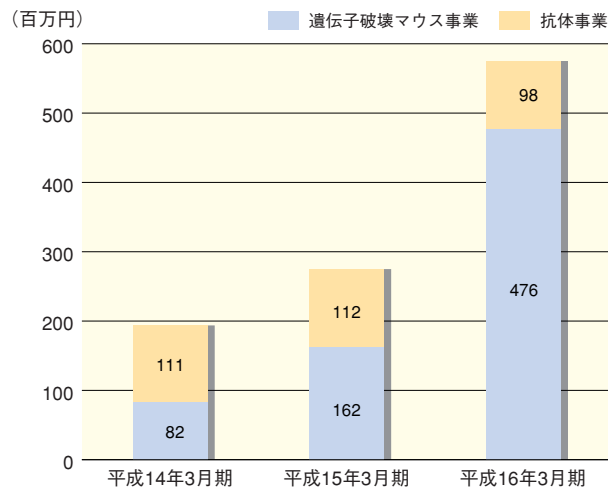
### 日経優秀製品・サービス賞を受賞

平成16年1月、当社の遺伝子破壊マウス事業が、ゲノム研究に役立つ「遺伝子破壊マウスによる遺伝子機能情報提供サービス」として、日本経済新聞社主催「2003年日経優秀製品・サービス賞優秀賞日経産業新聞賞」を受賞しました。

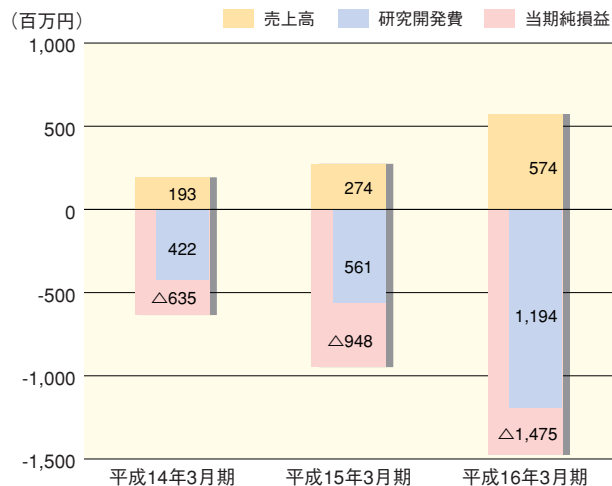
### GANPプロジェクトを立ち上げ

平成16年3月、熊本大学の阪口薫雄教授らが開発した高親和性抗体の産生技術に関する特許の独占の実施権を取得しました。この技術を用いたGANPプロジェクトを立ち上げ、高付加価値ビジネスに育ててまいります。

### 売上高の推移



### 損益の状況



## セグメント情報

### ■ 遺伝子破壊マウス事業

遺伝子破壊マウス事業におきましては、山之内製薬株式会社及び住友化学工業株式会社に対し、遺伝子破壊マウスから得られる情報を優先的に提供する第一市場が大きく進展したことにより、遺伝子情報売上高が350百万円と前期比257%になりました。具体的には、配列情報の開示数が、前期の129系統から233系統へと大幅に増加するとともに、表現型解析の開示数も前期の5系統から56系統へと増加しました。さらに、当期は継続的使用権の許諾に進展する系統が初めて現れました。また、製薬会社の依頼に応じ、製薬会社がターゲットとしている特定の遺伝子を狙って破壊する、遺伝子破壊マウスの作製受託が増加したことにより、受託事業収入が126百万円と前期比483%になりました。

遺伝子破壊マウスから得られる情報を非独占的に提供する第二市場につきましては、平成15年10月の外資系製

薬会社との契約締結を皮切りに、当期中には合計5社の製薬会社と契約を締結することができました。また、個別売却市場につきましては、平成16年1月よりテストマーケティングを開始し、3月末に完了しました。

生産体制につきましては、当社の競争優位を確立するために、協和発酵工業株式会社、財団法人化学物質評価研究機構及び塩野義製薬株式会社との間で遺伝子破壊マウスの作製に関する業務委託契約を締結し、作製規模を拡充しました。



### ■ 抗体事業

抗体事業におきましては、製品売上が横ばいだったものの、受託事業収入のうち、政府系機関からの受託事業が減少したこと等により、98百万円と前期比87%にとどまりました。

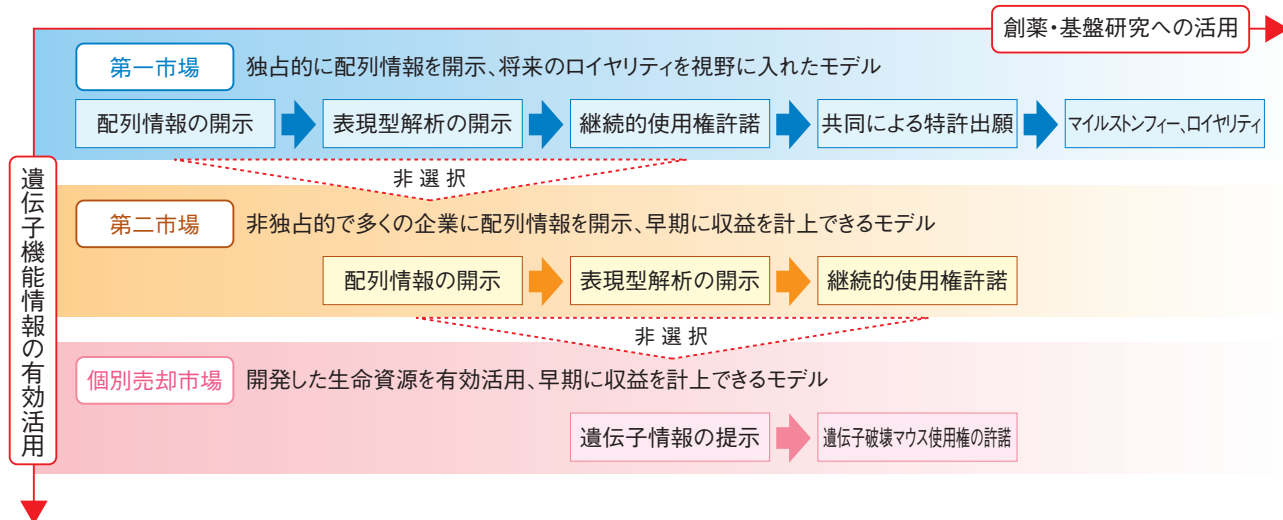
政府系機関からの受託事業のほか、国内外の研究者や研究機関等からの抗体作製受託を実施する中で、ネットワークを拡大してきました。こうしたなか、平成14年度大学発事業創出実用化研究開発事業に採択された、当社が資金提供事業者である研究テーマ「高親和性抗体産出GANP遺伝子導入マウスを用いた抗体医薬創出の基盤技術の開発」の受託研究についても一定の成果を得ること

ができ、平成14年11月、本技術に関する特許が出願されました。平成16年3月、当社は株式会社イムノキックより、これに係る独占的实施権を取得いたしました。



# 遺伝子破壊マウス事業における今後の取組み

## ■ ビジネスモデル



## ■ 売上の増加に向けて

当社の遺伝子破壊マウス事業は、上図のように三層構造から成っております。

第一市場につきましては、配列情報の開示、表現型解析の開示、さらに継続的使用権の許諾まで進展しております。今後は、遺伝子破壊マウスを数多く作製し、配列情報の開示数を増加することに取り組んでまいります。配列情報を開示すると、一定の割合で表現型解析、継続的使用権の許諾へと移行してまいります。継続的使用権の許諾に進むということは、共同特許の予備軍が増えていくことを意味し、将来のマイルストーンフィーやロイヤリティを獲得できる可能性が高まります。従って、これらを獲得するための前提条件となる、共同特許への出願に移行していくことを期待しております。

第二市場につきましては、遺伝子破壊マウスから得られる情報を非独占的に提供する枠組みとなっておりますので、契約企業数を増やすことが収益獲得機会を高めることにつながります。今期は、契約企業数を前期に契約しました5社と合わせて、10社にする計画であります。

個別売却市場につきましては、平成16年より、個別売却に関する市場性、販売方法についてのテストマーケティングを開始し、同年3月末に完了しました。今期より営業活動を開始し、平成16年5月には最初の販売契約を締結することができました。今後は、拡販に向けてのより一層効率的な販売手法や販売チャネルを構築してまいります。

## ■ 1 系統当たりの作製コスト低減に向けて

遺伝子破壊マウス1系統当たりの作製コストを低減するために最も有効な方法の一つは、遺伝子破壊マウスの作製数を増加させることでもあります。前期中には、外部委託先を含め、年間1,000系統の作製規模を確保しましたので、このなかで稼働率を上げ、作製数を増加できるよう、取り組んでまいります。

稼働率を上げていくためには、作業員の熟練度を上げることが必要です。このために技術の標準化をより一層進めるとともに、社員教育や外注先への指導を強化してまいります。また、マウス作製に係る総コストの半分以上を占める、委託費の見直しにも取り組んでまいります。

さらには、研究開発部門において、科学的・技術的な見地から、マウスの作製手法や作製工程の効率化に関する研究を進めており、事業全体としての効率化を図り、作製コストを低減してまいります。

### ● 遺伝子破壊マウス事業の作製ネットワーク



## 新たな事業の展開

これまで、当社が実施してきた遺伝子破壊マウス事業や抗体事業を推し進めていくなかで、大学等と良好な関係を築くことができました。当社のビジネスとシナジーがあり、且つ現有の生産施設や営業ラインを有効活用でき、新たな投資負担がほとんど発生することなく事業化できるものに関しましては、前向きに取り組んでまいります。

こうした取組みのなかには、平成16年3月に独占的な販売実施許諾権を獲得した『カテプシン関連遺伝子を用いた疾患モデルマウス事業』や高親和性抗体の産生技術に関する特許の独占の実施許諾を獲得した、『GANPプロジェクト』などがあります。

これらの事業が業績へ寄与してくることにより、結果として早期の黒字化につながる可能性があることを期待しております。

# 財務諸表

## 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	前 期	当 期
	平成15年3月31日現在	平成16年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流 動 資 産	3,628,369	2,072,366
現金及び預金	3,001,133	1,389,709
受取手形	4,296	1,037
売掛金	82,855	139,187
有価証券	399,767	349,827
棚卸資産	48,658	99,098
前払費用	18,500	13,554
子会社短期貸付金	20,000	30,000
未収消費税等	51,950	49,532
その他	1,315	590
貸倒引当金	△ 107	△ 171
固 定 資 産	466,172	547,811
有形固定資産	321,364	317,936
建物	87,796	71,477
機械及び装置	30,904	59,553
工具器具及び備品	202,463	186,793
車両運搬具	199	112
無形固定資産	64,754	50,342
ソフトウェア	64,056	49,644
電話加入権	698	698
投資その他の資産	80,052	179,532
投資有価証券	12,000	96,760
子会社株式	10,831	10,831
長期前払費用	3,942	8,589
敷金	46,653	35,573
その他	6,626	27,778
資 産 合 計	4,094,541	2,620,177

科 目	前 期	当 期
	平成15年3月31日現在	平成16年3月31日現在
<b>(負債の部)</b>		
流 動 負 債	558,240	563,107
短期借入金	160,000	160,000
未払金	111,453	313,554
未払費用	28,051	37,244
未払法人税等	2,300	3,424
前受金	256,419	48,868
その他	14	15
固 定 負 債	210,037	200,000
社債	200,000	200,000
その他	10,037	—
負 債 合 計	768,277	763,107
<b>(資本の部)</b>		
資 本 金	2,404,723	2,414,022
資本剰余金	2,515,406	2,515,901
資本準備金	2,515,406	2,515,901
利益剰余金	△ 1,593,169	△ 3,068,977
当期末処理損失	1,593,169	3,068,977
(うち当期純損失)	(948,023)	(1,475,807)
株式等評価差額金	△ 446	△ 3,626
自 己 株 式	△ 250	△ 250
資 本 合 計	3,326,264	1,857,070
負債・資本合計	4,094,541	2,620,177

### POINT

1

#### ●現金及び預金の減少並びに負債・資本合計の減少

主力の遺伝子破壊マウス事業は先行投資段階であり、研究開発費が拡大するなか、当期純損失が1,475,807千円となりました。このため、研究開発費の支払い等から現金及び預金が減少し、当期純損失となったこと等から負債・資本合計が減少しました。

### POINT

2

#### ●投資有価証券の増加

生物を用いて化学物質の環境測定を行うことを目的に、電源開発株式会社と合弁で株式会社エコジェノミクスを設立しました。また、高親和性抗体の産生技術に関する特許を有する株式会社イムノキックへ出資しました。



## 損益計算書

(単位：千円)

科 目	前 期	当 期
	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
(経常損益の部)		
営業損益の部		
営業収益		
売上高	274,962	574,870
営業費用		
売上原価	86,092	196,975
販売費及び一般管理費	1,087,870	1,845,681
(うち、研究開発費)	(561,059)	(1,194,522)
営業損失	898,999	1,467,787
営業外損益の部		
営業外収益	3,877	4,405
受取利息及び受取配当金	494	762
その他営業外収益	3,383	3,642
営業外費用	49,730	6,393
支払利息	2,200	2,703
新株発行費償却	42,156	—
その他営業外費用	5,373	3,690
経常損失	944,853	1,469,776
(特別損益の部)		
特別利益	203	—
固定資産売却益	203	—
特別損失	984	2,520
固定資産除却損	984	2,520
税引前当期純損失	945,633	1,472,297
法人税、住民税及び事業税	2,389	3,510
当期純損失	948,023	1,475,807
前期繰越損失	645,145	1,593,169
当期未処理損失	1,593,169	3,068,977

## 損失処理

(単位：円)

科 目	前 期	当 期
I 当期未処理損失	1,593,169,104	3,068,977,062
II 次期繰越損失	1,593,169,104	3,068,977,062

### POINT

3

#### ●研究開発費の増加

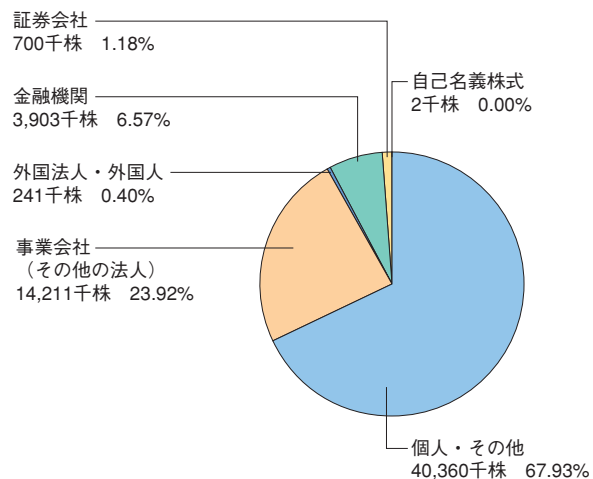
遺伝子破壊マウスの作製規模を拡充したため、委託先である製薬会社へ支払う施設の賃借料や作製に係る人件費等の外注費が増加したこと等から、研究開発費が増加しました。

# 株式の状況 (平成16年3月31日現在)

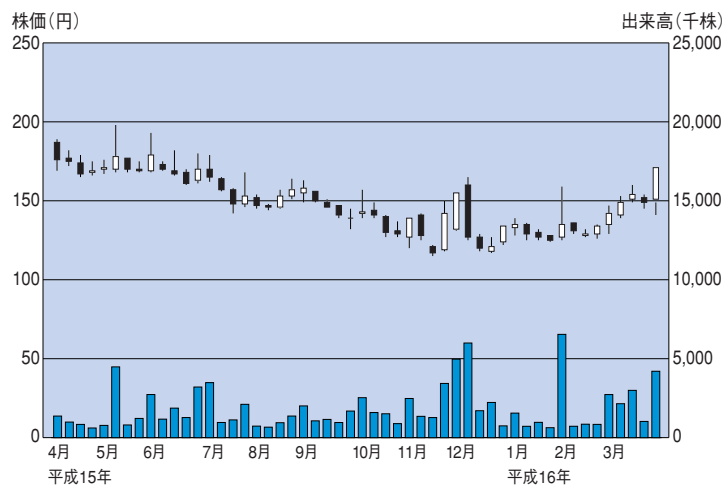
- 会社が発行する株式の総数 235,538,000株
- 発行済株式の総数 59,416,500株
- 株主数 8,599名
- 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
(株)井出事務所	10,663	17.96
井出剛	4,741	7.98
日本生命保険(相)	1,350	2.27
第一生命保険(相)	1,050	1.76
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,016	1.71
大阪中小企業投資育成(株)	950	1.60
電源開発(株)	900	1.51
大阪投資育成第2号投資事業有限責任組合	750	1.26
松井証券(株)(一般信用口)	651	1.09
是石匡宏	605	1.01

## 所有者別株式分布状況



## 株価及び出来高の推移





# 株主メモ

- 決算期 毎年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 株式確定基準日 毎年3月31日
- 定時株主総会  
議決権行使株主  
確定日 毎年3月31日
- 中間配当基準日 毎年9月30日
- 利益配当基準日 毎年3月31日
- 1単元の株式数 1,000株
- 名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱信託銀行株式会社 証券代行部  
同 取 次 所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店
- 公告掲載新聞名 日本経済新聞

決算公告については当社ウェブサイトにて貸借対照表及び損益計算書を記載しております。

<http://www.transgenic.co.jp>

## ●お知らせ●

平成16年6月26日より名義書換代理人をUFJ信託銀行株式会社から三菱信託銀行株式会社に変更いたしました。

郵便はがき

810-8790

料金受取人払

福岡中央局  
承認

6516

差出有効期間  
平成16年12月  
31日まで  
(切手不要)

(受取人)

福岡市中央区天神1-1-1  
アクロス福岡東館9階

株式会社トランスジェニック

経営企画室 IR担当者 行



フリガナ			
ご氏名			
ご住所	〒( ) (都・道・府・県)		
お電話番号	( )		
性別	男・女	年齢	( )歳
株式 投資歴	a. 3年未満 c. 10年以上20年未満	b. 3年以上10年未満 d. 20年以上	